

第37回（平成28年度第1回）施策調査専門委員会 意見整理表

資料1-2

No	発言者	意見内容	対応（案）
0	—	○「水源環境保全・再生事業会計（特別会計）に係る24～27年度の実績の状況」の扱い （4年間累計版とするか、5年間推計版とするか？）	これまでと同様、4年間累計版とする。
1	中村	○県民の事業モニターも大事だが、行政による専門的なモニタリングを重視すべき。 ○もっと、県民に分かりやすく知らせる努力が欲しい。	<p>1 ・左記の意見を集約すると、「これまでの水環境モニタリングなどで分かってきたことをわかりやすく県民にアピールすることが必要」と整理 ・そこで、別添資料1-3のとおり、モニタリング調査を基礎とした中間評価の成果も掲載することとし、それに伴い、本報告書の構成の見直しを行うこととする。</p> <p>2 ・報告書全体のボリューム増を抑えつつ、同時に県民へわかりやすい情報提供を図るため、HPを活用することとし、そのURLを本報告書内で紹介する。</p> <p>3 モニタリング結果の事業への活用事例について、本報告書内で紹介する。 →付録 15-2ページに記載</p>
2	鈴木	○11番事業は、最終的なゴールとなる答えは直ぐに出ないことに挑戦しているが、何をやってるのか、どんな進捗なのかということは、伝えられるのではないかと。この報告書の中に決められたフォーマットにしたがって書くだけではなく、もう少しシステマティックに。	
3	鈴木	○各事業ごとにスライスした説明だけでは分かりづらい。不十分である。神奈川県は、森林整備とシカ対策といった同時に行わなければならないことを、きちんとやっている。 （例えば）H26報告書の0-11ページは、そうした総合的な取り組みを行っているのだから、それをアピールするような形にして欲しい。	
4	鈴木	○モニタリング調査についての記載は、対照流域法など、先進的な取り組みを行っており、もっと積極的な書き方ができるはず。淡々と書きすぎている。 （例えば）データ（調査結果）だけでなく、4箇所地域流域を見ることによって分かってきた神奈川県の特徴などもあるので、もっと積極的にまとめたらどうか。	
5	鈴木	○県の事業計画の中で行った調査結果だけでなく、全国との比較、他県との比較をすれば、もっといろいろな言い方ができるのではないかと。	
6	中村	○折角これだけ継続したモニタリングの結果が出ているのに、それをどう水源の事業に反映するかというところが見えて来ない。モニタリングの内容によっては、将来こういう事に繋がって行くのではないかとという表現があっても良い。	
7	浅枝	○事業モニターの報告書は分かりづらい。ただ意見が羅列してあるだけで、一つ一つの意見を読んでも何と何がどうつながっているのか分からない。 科学的な仕組みの上に、行政がどのような形でアプローチしているか（水源環境税だけでなく一般財源からもアプローチしている部分もあるかと思う）、そこから派生してきている現象に対しモニターした方の意見がどのように出されたか、という繋がりが分かるようにしたらよい。	
8	鈴木	○人工林整備状況調査の結果は、地図に落とせないのか。 それがあると、地域による取組の違い、偏りなども分かるのではないかと。 ○河川モニタリング（県民調査）の結果は、地図に落とせないのか。 それがあると、専門課調査との違いがわかり、また、その原因は何なのかといった話もできるようになる。	
9	中村	○生態系効果把握調査について、（鳥類への影響はないというが、）藪に依存する鳥類はずいぶん前に姿を消してしまっており、これが戻ってくるのには相当な時間が係るのではないかと。したがって、（2～3年の）短期間の調査で結論を出すのは性急すぎる。	
10	太田 （後提出）	○水資源の確保を目的にした各施策であることから、各モニタリング結果については総じて水量の確保に寄与しているか、水質改善・良好な水質の維持に寄与しているかという説明やコメントを一言でも付す必要があるのではないかと。 水量確保については（利根川水系で深刻な課題になっている）渇水発生の抑制に寄与しているかどうか、水質改善・良好な水質の維持に寄与しているということを、事業に応じて触れるとわかりやすい。	
11	太田 （後提出）	○社会科学的な視点から評価する場合、本税で行っている事業が県全体で取り組んでいる水資源確保とその管理のどの部分を担っているのかを明示する必要があるのではないかと考える。一般会計と特別会計の関係を図示して明示することがわかりやすくなるのではないかと考えたが、それが難しい場合は、本税の事業が水資源確保とその維持に寄与している旨の図を入れるといいのではないかと考えた。 例えば、点検結果報告書の0-6ページに「かながわの水がめの水質」の図があるが、この流域図を活用して、各事業が流域図のどこに位置付けられるのかということを図示するとわかりやすくなるのではないかと。	